



スポーツを通じて教わったこと

～元オリンピック代表選手田中光さんを迎えて～

なぎさ公園小学校
教諭 原光太郎

すこやかキッズスポーツ塾

2008年3月6日(木)、なぎさ公園小学校にアトランタオリンピック体操日本代表の田中光先生をお迎えしました。この催しはスポーツ用品メーカーの「DESCENTE」の社会貢献イベント「すこやかキッズスポーツ塾」として本校の2、3年生を対象に行われたものです。全国で4都市、広島県では本校のみです。子どもたちは本物の技を間近に見て、楽しい時間を過ごすことができました。



田中光先生

元オリンピックの体操日本代表選手。現在は、洗足学園短期大学・幼児教育保育科の准教授として教室で大学生を教えています。田中先生は忙しい仕事の合間をぬって、子どもたちに体操の面白さを伝えたいとの思いから「ティーチャーヒカル」として各地で体操の実技指導をされている方です。

3つの大切なこと

体育館のステージ上で田中先生は片手側転から、片手バク転の派手な登場。2、3年生の子どもたちは沸き返ります。その後、先生から次のようなお話がありました。先生の子どもの頃のこと。怪我をして歯がゆい思いを

した。成績が伸びずに悩んだことなど。オリンピックに出たことなど。真のアスリートならではの話に子どもたちは興味津々でした。そんな中で田中先生が大切にしてきたことが3つあるそうです。



その3つとは「あいさつ」「あきらめない」「考える」ということだそうです。奇しくも「あいさつ」というのは2007年度のなぎさ公園小学校での大きな目標のひとつと同じでした。気持ちのいい「あいさつ」から何事も始まることからあいさつの重要性を話されました。

「あきらめない」ことは、怪我や不振などでなかなかうまくいかなかったときも、投げ出さなかったことによりオリンピックの出場ができた。そういう経験から、子どもたちにもあきらめないことの大切さを訴えられました。

体操は体を動かすスポーツですが、頭もしっかり使わなければなりません。例えば、どうしてこれではうまくいかないのか、うまくいくにはどこを工夫すればいいか、しっかり「考える」ことの必要性も話されました。

3つともスポーツに直結する言葉はありませんが、どれも何かするときの基本となることだと感じました。

リズム体操

いよいよ体を動かす番です。まずは田中先生がみんなの前でお手本の動きをさせていただきます。田中先生の動きはひとつひとつにメリハリがあり、美しい一言です。子どもたちもしばしば見とれていました。なかには田中先生が技を披露するたびに「原先生あれができる?」といった余計な視線を送ってくる児童もいましたが…。それらの動きを教わった後に、音楽に合わせて踊ります。ただし、そこはティーチャーヒカル。動きも子どもたちが乗りやすいように、「ロケット発射!」や「携帯電話」「はい記念撮影」などといった面白いものが盛りだくさん。田中先生がやるとそれほど難しそうではないのですが、じっさいにやってみるとなかなか大変で、連続してやるのは体力的にも至難の業です。また、面白いだけでなく、おしりだけで床を回するには初めに体を大きく使い、回り出したら体をちっちゃくする、といったように、わかりやすく、すぐに結果が出るような教え方で、教員たちも思わず「なるほど…」と感心しきりでした。

音楽の声も田中先生自身が歌っているそうです。とても楽しい音楽ばかりで、子どもたちは知らず知らずのうちにヒカルワールドに引き込まれていました。ここでは運動が得意な子ども、そうではない子ども関係なく楽しめました。曲の途中はみんな笑顔、曲が終わったときにはみんななくたくたになっていました。

り、子どもたちは知らず知らずのうちにヒカルワールドに引き込まれていました。ここでは運動が得意な子ども、そうではない子ども関係なく楽しめました。曲の途中はみんな笑顔、曲が終わったときにはみんななくたくたになっていました。



何曲かやっただけですが、実は音楽ごとに、田中先生の「想い」と「ねらい」が込められていました。例えばこの曲は柔軟性を養う動き、この曲は体の巧緻性を高める動き、といったようにそれぞれに目的に合った動きの組み合わせとなっていたのです。いずれはと考えている「なぎさ体操」の素晴らしいヒントを与えてもらった気持ちでした。

器械運動

少し休憩を挟んだ後、今度はマットや跳び箱の指導をしてもらいました。最初、模範演技として田中先生にも跳び箱8段を跳んでもらいました。跳び箱やマットで実際に体を支えながらの指導には、子どもたちは大喜びでした。楽しみながらも、いつしか子どもたちの表情が真剣になり、自分が見られていることを意識し

ながらの演技ができるようになりました。上達しているのがこちらの目にも明らかでした。自分なりの目標を見つけてそれに挑戦する、そしてそれを克服したときの喜びを味わう。これまで器械運動が苦手だった子からも「楽しかった」「器械運動が好きになった」という声が聞かれました。

田中光先生をお迎えして

一流のアスリートというのは、技術面において素晴らしいだけでなく、プラスアルファがあるのだと感じた。子どもたちを夢中にさせ、付けさせたい力を明確に持ち、そのために何が必要か理解し、相手に応じたやり方で指導する。私自身たくさんのことを教わりました。

代表の児童の子が言いました「田中先生の言われた『あきらめない』に気をつけて体育の授業を受けていきます。」「僕もいつかオリンピックに出られるように頑張ります。」子どもたちが新たな目標や夢を見つけた瞬間でした。最後に田中光先生からメッセージが届いています。



「運動することが苦手な人もいるかもしれませんが、あきらめず、自分のできることを探してチャレンジしてください。何でもそうですが、普段の積み重ねが大事で、コツコツ努力することが目標達成への近道です。ネバーギブアップ!」

